



range Breeze

出水市教育委員会より

令和4年12月26日 No.191



「いずみ」らしいとは・・・？

「春らしい陽気」、「日本人らしいふるまい」など、「〇〇らしい＝〇〇にふさわしい」という言葉が使われますが、さて、「『いずみ』らしい」と聞くと、みなさんはどのようなことが思い浮かびますか？

出水市では、将来を担う子供たちが、グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、これから生きていくために必要な資質・能力を育むとともに、学校と家庭や地域社会が連携し、郷土の発展に積極的に貢献しようとする郷土愛と将来に希望をもった人材の育成を推進しています。

その中でも、「郷土に根ざした『いずみ』らしい教育」として、日本遺産に登録された「薩摩の武士が生きた町を構成する武家屋敷群『麓』」やラムサール条約に湿地登録された「出水ツルの越冬地」を生かした地域資源、郷土素材を活用した教育活動の充実を図っています。

また、全ての小・中・義務教育学校に学校運営協議会を設置しており、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むコミュニティ・スクールを導入しています。コミュニティ・スクールは、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを学校と地域住民等が共有し、地域と一体となって、出水の風土や地域の特色を生かした魅力ある学校を創り上げる「地域とともにある学校づくり」を進めることができます。

このように、出水市の学校において、それぞれが地域の特色を生かした「『いずみ』らしい」教育を推進することにより、その結果として、児童生徒一人一人が、自らが社会を形成する一員であるという自覚を高めるとともに、新たな社会を切り拓こうとする気概をもつことにつながっていくものと考えています。

「ツルガイド博士」ボランティアガイド活躍中！



平成22年度から「いずみツルガイド博士」検定を実施しており、筆記試験1級及び実技検定に合格した児童生徒が、ボランティアガイドとして活躍しています。この取組は、ある企業の入社試験において、出水出身の生徒が出水に関するこの質問に答えられなかったというある経営者の言葉をきっかけに、もっとふるさとを知りたいという思いから始まったものです。今年、1,472人が筆記試験に臨み、新たに15人のボランティアガイドが誕生しました。この冬も、現役のボランティアガイドを含め、51人がツル観察センターにおいて、来場される方にツルや出水の魅力を発信していきます。



この取組に対して、平成28年からJAL日本航空のご厚意により、ボランティアガイドにジャンパーを寄贈していただいています。毎年、子供たちは、JAL

のマークが入ったジャンパーを着て、ガイドを行います。

今年のボランティアガイド結団式において、米ノ津中学校の中野心咲さんが決意を述べました。自分たちの住む「ふるさと出水」のよさを伝え、訪問者を喜ばせる活躍を楽しみにしています。



私はツルの羽ばたくときの雄大きが好きで、そのようなツルの魅力を県内外の方々に知ってほしいと思い、ツルガイドになりました。

出水市では、現在、鳥インフルエンザによりツルが死んでしまったり、養鶏の鳥を殺処分しなければならなくなったりと悲しいニュースを耳にします。しかし、これから出水市は毎年渡来してくるツルと重要な産業の一つである養鶏を、ともに鳥インフルエンザから守る方法をみんなで考え取り組んで、共存していけたらいいなと考えます。

それから、令和3年には「出水ツルの越冬地」がラムサール湿地条約に登録されました。このことによって、より一層ツルを守っていこうとする活動、ツルをもっともっとPRする活動が活発になっています。

私は「ツルガイド博士」ボランティアガイドの活動をおして、ツルの魅力、出水市のよさを県内外の方々に伝えていきたいです。

ボランティアガイドを経験して

鹿児島大学4年 橋元 麻衣

10年前、小6のときに初めてツルガイド博士としてガイドを行いました。当時は、人前で話すことにも慣れておらず、一人でのガイドに不安がいっぱいでした。しかし、自分の拙い説明を観光客が優しく聞いてくださり、回数を重ねるうちに不安も減っていきました。中学校でもガイドを続け、ガイドをとおした友人もできました。自作の資料等で分かりやすいガイドに努めるなど、自分なりに工夫をしたことを覚えています。

大学に入り、講義でのプレゼンテーションや接客のアルバイトなど、人前に立つ機会も増えてきました。そのような機会に堂々と話せているのは、ツルガイドを務めた経験があったからだと思っています。また、出水出身ということからツルの話題で初対面の人とも交流を深めることができています。

ツルガイドは、出水のよさを伝えるとても貴重な経験で、今も続けていることを嬉しく思います。これからガイドを務めるみなさんには、ツルや自分の思う出水のよさを自信をもって広めてほしいと思います。



【当時の橋元さん】

湿地自治体認証を生かした出水の環境に学ぶ体験活動の充実

出水市は、昨年11月、ラムサール条約に「出水ツルの越冬地」として湿地登録されました。そして、今年5月には、国内初の「ラムサール条約湿地自治体」に認証されました。

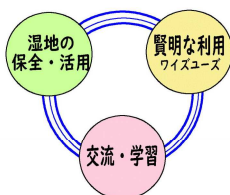
そこで、各学校においては、これらを契機に、出水の環境を学ぶ様々な体験活動に取り組んでいます。

ラムサール条約

ラムサール条約とは、湿地に関する条約で、正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。

出水市は、9つの国際基準のうち、「定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地」など、4つを満たして登録されました。

条約の目的である「湿地の保全」と「湿地の賢明な利用」、これらを促進する「交流・学習」の3つが条約の基盤となる考え方です。



湿地自治体認証

ラムサール条約湿地自治体認証制度は、自治体のブランド化及び地域における湿地の保全や賢明な利用を促進することを目的としています。

湿地自治体に認証されたことで、「ツルの越冬地」だけでなく、ふるさと出水市に誇りをもち、市全体の自然環境を守る意識が必要になっていきます。



このような様々な体験活動をとおして発見した課題について、その解決に向けた探究的な学習や教科等間の連携を図った活動を行うことで、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や環境教育、主権者教育、消費者教育等の現代的な諸課題に対応するために求められる資質・能力が育成されていくものと期待されています。

学校の取組

鮎の放流



野鳥観察



クレインパークとの連携

クレインパークと連携を図ったり、青年の家を活用したりすることで、体験活動の幅が広がります。そのため、ラムサール条約について詳しく学んだり、野鳥や湿地・川に住む生き物に触れたりする機会が増え、活動の内容も充実したものになっています。

青年の家の活用

学芸員による出前授業



天体観測会



ふるさと学寮



ラムサールレンジャー「ウナギの学校」



歴史を学び、伝統・文化に触れる教育活動

出水は、薩摩と肥後の国境の町として防衛上重要な町であり、数多くの薩摩藩士が住み着いた町です。そのような出水の歴史を学び、伝統や文化を知ることが、それらを育ててきた先人を尊重し、郷土を愛する態度を養い、これからの社会づくりに貢献できる児童生徒の育成につながるものと考えます。

特に、地頭であった山田昌巖は、青少年の心と体を鍛え、節義を大切にする「心の教育」を行い、今でも「出水兵児修養掟」が、全ての学校で朗読されるなど、その教えが引き継がれています。

また、学校によっては、伝統芸能が継承され、運動会などで披露されています。

武家屋敷の見学



伝統芸能「山田楽」



伝統芸能「棒踊り」

